

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 千葉県 】

1 実践テーマ	【 III V 】
2 実施対象者	学校名 千葉県立桜が丘特別支援学校 対象 全児童生徒 人数 169名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (体育) ② 行事名 (校外行事・「ボッチャ甲子園」) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者スポーツ、生涯スポーツを通して目標に向かって仲間と共に努力することやスポーツや身体を動かすことへの親しみや楽しさを感じながら興味関心を高める。 ・スポーツを通じて、地域や他校との交流の中で互いに支え合い、互いを尊重し合える心の育成につなげる。
5 取組内容	<p>○高等部を中心に、選抜チームをつくり全国特別支援学校ボッチャ甲子園に出場する取り組みとした。</p> <p><事前> 大会出場にあたり、出場選手を決めるために、校内で選手選考を行った。5月に選手選考を行い、大会へ出場を希望する選手が参加し、4名が選手として決定した。5月下旬から7月の大会までの期間、放課後の時間を利用して練習に取り組んだ。この大会は、ボッチャの正式ルールで行われるため、学校で取り組んでいるルールと異なる部分もあるため、ルールの確認を丁寧に行った。それぞれが自分の投球フォームを確認したり、確実にねらったところに投げられるように、投げ方や投げる姿勢、投げる強さなどを調整したりした。ランプ（補助具）を使用する選手は、サポートの職員と一緒にランプの高さや長さ、角度などによってボールが届く位置を一緒に確認しながら、当日に向けて、自分で考えて伝えられるようにも練習していった。また、チームとして、試合の進め方の作戦を考えたり、状況によって投球順を相談できるようにしたりと、当日の大会に向けて一人一人の技術とチーム力を高めていくようにした。</p> <p><当日> 会場の雰囲気緊張しながらも、全国各地から集まる強豪チームの中で、初戦突破。試合運びも、一人一人の投球も良く、勝利につなげ</p>

ることができた。2回戦目は、試合の中での一投が、大きく流れを左右し、なかなか自分たちのリズムをつくることができず、惜しくも敗退となった。全国の壁を感じるとともに競技への興味がより高まった大会となった。また、会場には、ボッチャ日本代表の選手も来ていて、交流することができた。



<事後>

大会出場後、大会当日の様子や感想について振り返る時間を設定した。全国の壁の高さや、まだまだ練習をしてうまくなれるという挑戦や自信にもつながった。大会後は、今度は学校行事である、千葉県特別支援学校体育連盟主催の、高等部ボッチャ大会に向けての取り組みにつなげた。

<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な大会への出場をきっかけに、競技への興味・関心がより深めることができた。また、仲間を意識し、チーム力を高めることができた。 ・大きな大会に参加することで、全国の仲間や日本代表選手と交流できる機会となり、経験の幅・視野を広げる良い機会となった。 ・目標に向かって努力することで、結果によって達成感だけではなく悔しさなども味わうことで、次の目標やまた挑戦してみたい等の前向きな気持ちをもつことができるようになった生徒もいた。
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールに関しては、学校の授業で取り組んでいるルールと異なるため、大会に準じたルールを細かく確認を行った。 ・大会当日はもちろん、練習の中でも常に目標をもって取り組むための働きかけを行うようにしていた。 ・試合の中では、近くでコーチからの指示ができないため、自分たちで協力し合える状況作り（話し合い等も含めて）を心がけるようにした。
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校として、多くの大会へ出場しているため、取り組みを進めるにあたり、校内での職員の協力体制が欠かせない。 ・安全に練習が進められるように、人的・物的に環境整備を行っていく必要がある。 ・大会参加に当たり、校内での選手選考の方法の検討 ・競技に関する職員への周知・理解。
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度と同様、大会への積極的な参加を計画していく。